

中東イスラーム諸国でも、不妊は女性にとっても男性にとっても深刻な問題である。そのため、不妊治療は不妊カップルに希望を与える医療として、広く受け入れられ、急速に普及しつつある。未婚でも不妊を気にして婦人科を訪れる女性も多い。しかし文化的な側面や宗教的な要因も受けて、イスラーム諸国ならではの生殖医療の実践のかたちも見える。本セミナーでは、二人の研究者から、特にエジプトとイランの生殖医療の事例を中心にイスラーム諸国の不妊や生殖医療について報告してもらう。

登壇者

細谷幸子 Sachiko Hosoya, Ph.D
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェロー
「イランにおける生殖補助医療をめぐる議論と実践」

鳥山純子 Junko Toriyama, Ph.D
日本学術振興会特別研究員、桜美林大学特別研究員
「生殖補助医療を求める女性たち
——性、生殖、医療の交差点から見た現代カイロ」

司会
進行

仙波由加里 Yukari Semba, Ph.D
お茶の水女子大学ジェンダー研究所

* 要事前申込（参加費無料）
IGSのウェブサイトか、右のQRコードからお申込みください



日時：2017年 **10** 月 **11** 日 **水** 18:30～20:30
場所：お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科棟408室

中東イスラーム諸国における 不妊と生殖医療 ——エジプトとイランを例に